

寝屋川市総合計画策定に係る
市民ワークショップ
報告書

平成 31 年3月

寝屋川市

《 目 次 》

I. 概要	1
1. 目的	1
2. 内容	1
II. 講演会・ワークショップ実施結果.....	2
1. 講演会「やさしく自治を語り合おう」	2
2. ワークショップ「できる、やりたい、やってほしい」	3
(1) (私・知人が) できる.....	4
(2) (寝屋川市で) やりたい	5
(3) (寝屋川市で) やってほしい.....	6
3. 市民参画による協働の可能性	7
4. 当日の様子 (写真)	8
5. 振り返りの結果	9
6. まとめ.....	11
7. (参考) アンケート結果.....	12
(1) 年齢	13
(2) 本ワークショップを知った方法 (複数回答)	13
(3) 開催時間について	14
(4) 実施したプログラムについての満足度	14

I. 概要

1. 目的

第六次寝屋川市総合計画の策定に当たり、寝屋川市の将来を見据えて、寝屋川市民の一人ひとりが取り組みたいことや、協力すればできそうなことが多いことを感じてもらい、その上で、市民が行政に求める役割や、市民が感じる寝屋川市の課題、実現の手段（市民協働）を明らかにすることを目的に実施しました。

2. 内容

実施日時 : 平成 30 年 9 月 15 日 (土) 10:00~12:30

会 場 : 寝屋川市役所 2 階第 1 会議室

参加者 : 41 人

内 容 : 中川幾郎名誉教授（帝塚山大学）の講演とワークショップ形式によるグループ討議と、市民同士のディスカッションを行いました（概要は下記のとおりです）。

- ・中川幾郎名誉教授から「やさしく自治を語り合おう」と題して、総合計画を策定する意義や、住民の役割を増やしていくことの重要性について講演頂きました。
- ・グループワークでは、ふせんを用いて「(私・知人が) できること」「寝屋川でやりたいこと」「寝屋川でやってほしいこと」を参加者それぞれが書き出し、それをグループや全体と共有しながら、自分たちでできることを検討しました。



II. 講演会・ワークショップ実施結果

1. 講演会「やさしく自治を語り合おう」

中川幾郎名誉教授から講演を頂きました。市民が求めるサービスが多様化し、自治体等に地域の自治の多くを任せていく団体自治のコストが上昇する中で、住民自治の重要性が上がっていること、その実現のために総合計画を用いながら行政と市民の役割分担を考え、より良い未来を共に築いていくことが重要であるという趣旨の講演でした。



2. ワークショップ「できる、やりたい、やってほしい」

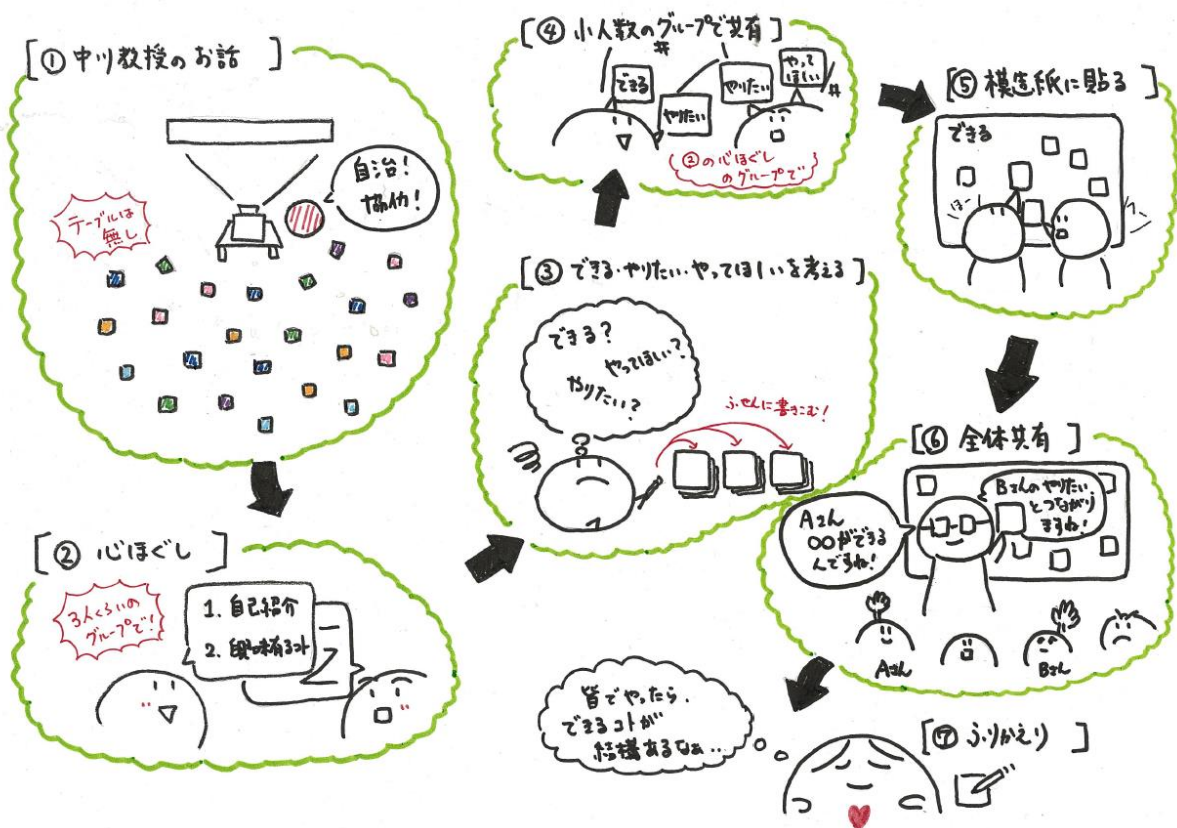
寝屋川市民の一人ひとりを取り組みたいことや、協力すればできそうなことが多いことを感じてもらい、その上で、市民が行政に求める役割や、市民を感じる寝屋川市の課題、実現の手段（市民協働）を明らかにすることを目的として、ワークショップを実施しました。

【市民ワークショップの流れ】（下図参照）

①中川先生のお話を聞いた後、②3人程度のグループを作って自己紹介をし、③それぞれの市民の皆さんができること、やりたいこと、やってほしいことをふせんに書き込んでいただきました。

次に、④そのふせんを少人数のグループで共有した後、⑤会場の前に設置した模造紙に貼り、⑥全体で誰がどんなことができるのか、どんなことをやりたいのか、といったことをインタビューしながら、つなぎ合わせていきました。

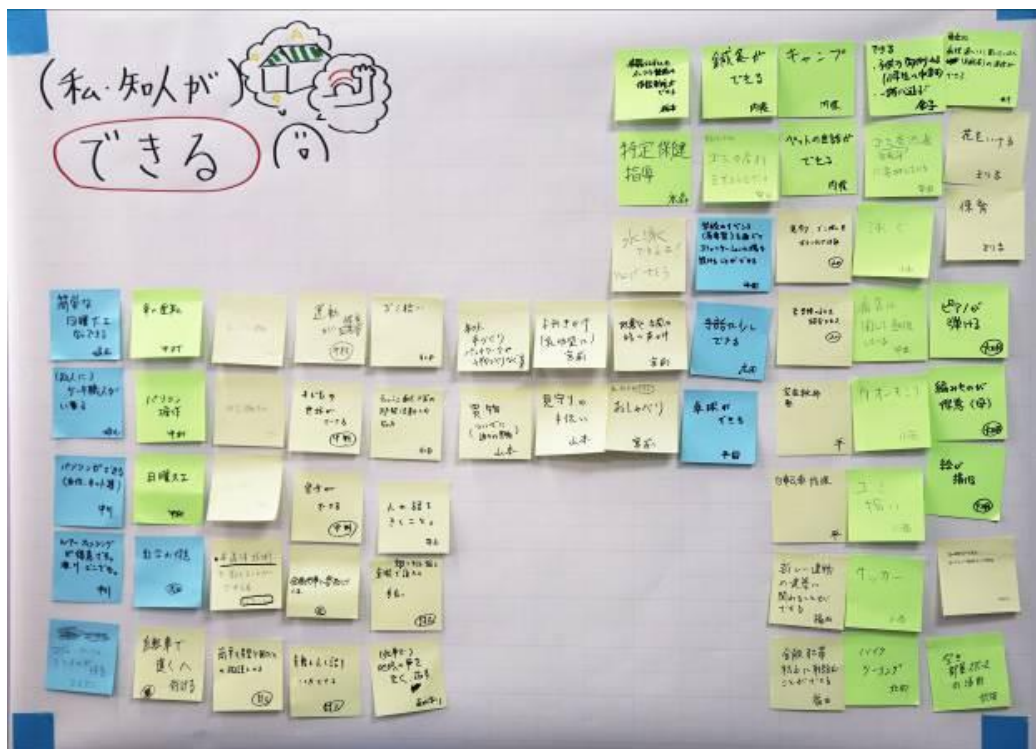
最後に、⑦それぞれのワークの中で最も心に残ったことを1つだけふせんに書いて頂き、これも模造紙に貼ってもらいました。



参加者が、ふせんに記載した内容は次のとおりです。

(1) (私・知人が)できる

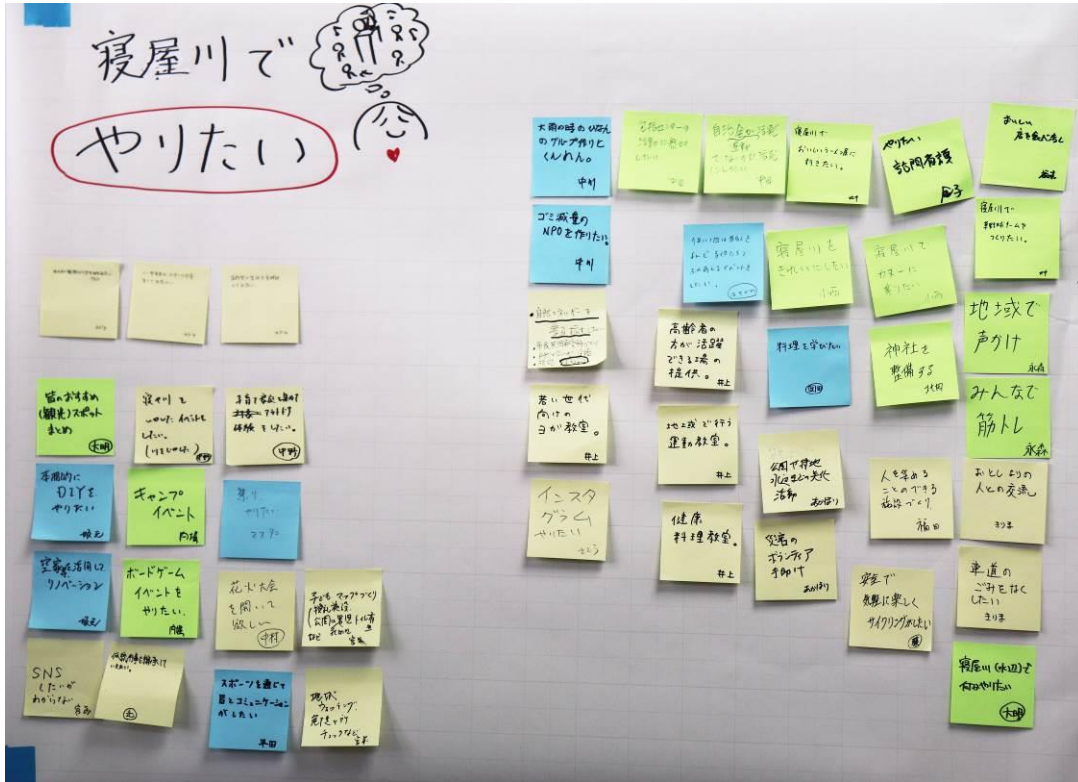
各人の趣味レベル（日曜大工、スポーツ）から、専門知識（半導体技術、情報システム、特定保健指導）まで多くの「できる」が集まりました。また、地域活動（ごみ拾い、おしゃべり、行事への参加等）についても、複数の人から挙げられました。



私ができること								知人ができること
家庭等	スポーツ等	専門知識	車の運転	地域活動	コミュニティ	子どもとの関わり	その他	
簡単な日曜大工	空手	パソコン(自作・ネット等)	車の運転→外出援助サービス	ごみ拾い	地震や・台風の時の声掛け(近所のコミュニティ)	子どもの世話	病気に関して勉強している	鍼灸
日曜大工	自転車で遠方まで行く	パソコン操作	通院に困っている人(高齢者)の送迎(車の運転)	ごみ拾い	コミュニケーションをとること	子供(小学生・中学生)の面倒をみる一緒に遊ぶ	金融犯罪の防止に取り組む	管理栄養士
花を生ける	運動が得意	数学	車の運転	ごみ拾い	人の話を聴くこと	保育	空き部屋・スペースの活用(ホームステイ)	ケーキ職人
絵を描く(ポスター・チラシ・冊子)	ルアーフィッシング(海・川どこでも)	半導体技術を教える(35年の経験)		ごみの分別を周知させる	気軽に人と話すこと	読み聞かせ(乳幼児)	各業種の方々を紹介する	編み物
簡単な料理	キャンプ	情報システムのインフラ整備中。情報発信ができる。(電子カルテ)		ごみを減らすための交流会(寝屋川市)に参加	おしゃべり			パッチワークや小物づくり(手作り)
ペットの世話(犬3頭・猫4匹)	水泳(スポーツジム)	特定保健指導		防災運動に参加	簡単な要望や困りごとの相談に乗る			保健士
	水泳	家庭教師・塾(学生時の経験、小〜高校生対象)		伝統行事に参加している(だんじり)	余暇で誰かの手伝い(負担にならない程度に)			
	卓球	建物の建築に関わる(建築会社勤務)		学校のイベント(高専祭・11月初旬)を通じ、コミュニケーションの場を設ける	自分の買い物のついでに、他の人の分も代わりに買い物する			
	ウォーキング	手話を少し		啓発活動への協力(ティッシュ配り等)				
	サッカー(審判・リフティング100回)	ピアノを弾く(伴奏)		あいさつ運動				
	バイクツーリング(ハーレー)	自転車修理		見守りの手伝い				
				見守り・ごみ拾い等、ボランティア活動				
				地域の声を聴く・話す(仕事で自治会の窓口)				

(2) (寝屋川市で)やりたい

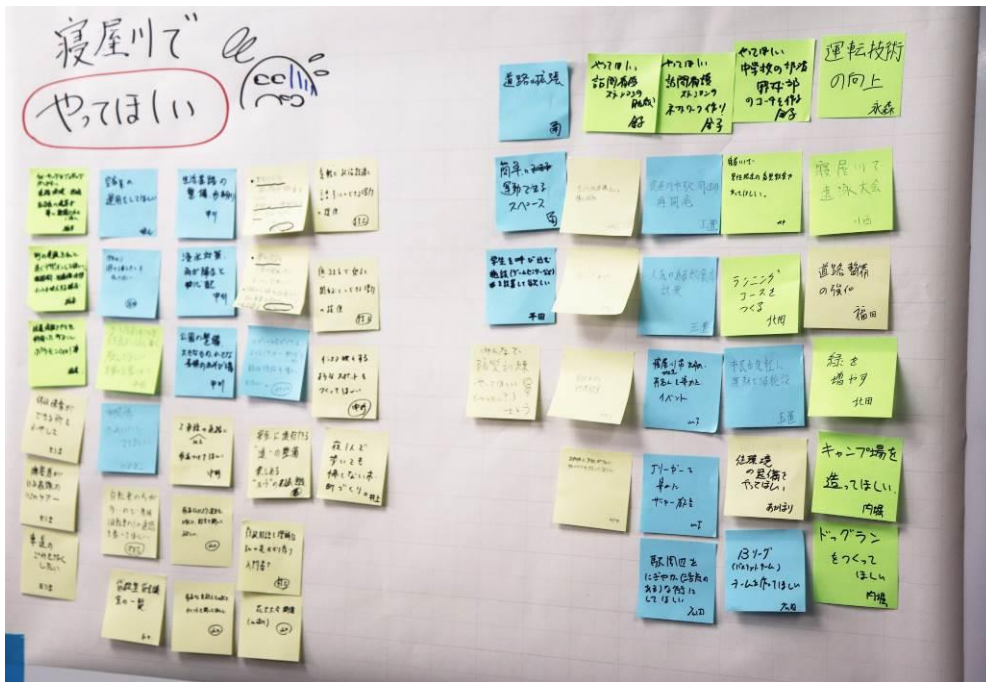
それぞれが得意なことを活かして、人を集めてイベント(例:キャンプ、サイクリング、スポーツなど)を実施したいという意見が多くありました。一方で、ごみ拾いや地域・高齢者の見守りなど、空いた時間を活用しながら地域活動に参加したいという積極的な意見も挙げられました。



スポーツ等	イベント等の開催	専門知識等	地域活動・災害対策	高齢者・要介護者	その他
若い世代向けのヨガ教室	寝屋川の水辺で何かやりたい	自然エネルギーを普及・拡大する(市民共同発電所の建設・自然エネルギー学校・防災)	住み良い街づくり	高齢者が活躍できる場の提供	おいしい店を食べ歩く
地域で行う運動教室	子育て家庭を集めて、アウトドア体験	人を集めることができる施設の建設	神社を整備する	高齢者との交流	おいしいラーメン屋に行く
スポーツを通じて、皆とコミュニケーション	キャンプイベント	空き家等を活用してリノベーション	公園や緑地・水辺などの美化活動	訪問介護	皆のおすすめ(観光)スポットのまとめ
小・中学生にスポーツ指導(テニス経験者)	ボードゲームイベント	本格的なDIY	寝屋川をきれいにする	高齢者の生活の手助け	子どもマップ作り(授乳施設、公園の乳幼児・男児トイレの有無等)
草野球チームを作る	花火大会		車道のごみをなくす	市民バリアフリーチェックのツアー	健康料理教室
安全で楽しくサイクリング	祭り		ゴミ減量のNPOを作る		料理を学ぶ
皆で筋トレ	伝統行事の継承		包括センターの活動に参加する		インスタグラム
寝屋川でカヌーに乗る	寝屋川をいかしたイベント		自治会運動を活発にする		SNS
	年に一度、有名人をよんで子供達と触れ合えるイベント		豪雨時避難のグループ作成と訓練		
			地域での声掛け 地域ウォッチング(危険箇所の手チェック等) 災害のボランティア・手助け		

(3) (寝屋川市で) やってほしい

道路整備や施設整備など、インフラ・ハード系の要望が多かったほか、イメージアップや情報発信（災害時、イベント時）などについての意見も複数寄せられました。



生活環境		スポーツ・文化			災害対策	高齢者・要介護者	その他
道路の整備	その他	環境の整備	施設の整備	イベント等の開催			
生活道路の整備 歩道と車道の分離	市のイメージアップ	ウォーキングがジョギングがしやすい道路環境・照明の整備。自治会の境界が特に整備されていない。	「まちづくり」何か所か拠点をつくり、各拠点に特徴的なもの（文化・スポーツ等）をつくってほしい	有名なバスケット選手を呼んで、教室を開いてほしい	「浸水対策」雨が降ると心配	訪問介護ステーションの助成	空き家等の運用をしてほしい
自転車の方が多くので、(自転車)専用道路をつくってほしい	町の美観をもっと良くデザインしてほしい(街路樹・防護柵・信号等、インスタ映えるような)	安全に通行できる「道」の整備。楽しめる「ルート」の発掘・創造。	(学生が)遊べる施設を作してほしい	有名な芸能人を呼んで、イベントを開いてほしい	安否確認	障害者がいる家族の心のケア	行政用語を理解するための足がかり作り入門書等
二車線以上の道路に歩道をつけてほしい	インスタ映えるようなスポットを作してほしい	ランニングコースをつくる	貸教室・貸会議室の一覧	花火大会開催(in淀川)	避難所に自然エネルギー発電が出来るように	高齢者に負担がない街づくりを行ってほしい	市民から得たお金で市の事業を進める
道路の拡張	緑を増やす	「公園の整備」大きなもの、小さな子供の遊び場	Jリーガーを集めたサッカー教室	みんなで防災訓練をやりたい	訪問介護ステーションのネットワーク作り	電力会社(市が参画した)をつくってほしい	
道路整備を強化	駅周辺を賑やかな(活気のある)街にしてほしい	スポーツ大会(サッカー・野球等)ができるような競技施設を増やしてほしい	地元の有名人を集めたイベント	避難所の空調設備を整えてほしい	空き家をグループホームへ	twitterをしてほしい(災害・イベントに便利)	
まちをきれいに。歩道のデコボコをなくしてほしい	夜一人で歩いても怖くない市・町づくり	気軽に政治経済を話すことのできる場所の提供	男性だけの料理教室				運転技術の向上
	緑町イオン周辺を活性化してほしい。買物ができない。イオンをなんとかしてほしい。	低コストで他人と関わることのできる場所の提供	遠泳大会の開催				市役所をきれいにしてほしい
	車道のごみをなくしたい	簡単に運動できるスペース	Bリーグ(バスケットチーム)のチームを作してほしい				
	ゴミ分別のことを住民にくわしく教えてほしい。年輩の方、若い方に。	学生を呼び込む施設(ゲームセンターなど)を設置してほしい	男性限定の育児教室をやしてほしい				
	生ゴミ処理機などの購入補助	カジノオープン	位置情報アプリを利用した町おこし。ポケモンGO!等				
	住環境の整備をしてほしい	ドッグランをつくってほしい	中学校の部活で野球部のコーチをつくる				
	休日保育ができる所を増やして	若い人も高齢者も色々なサークル活動が出来る施設がほしい					
		キャンプ場を造ってほしい					
		市民が気軽に運動できる施設					
		リラット(子育て総合支援拠点)を利用しやすいようにシャトルバスを運行してほしい					

3. 市民参画による協働の可能性

「できる」「やりたい」の組み合わせ（市民間の協働）で、「やってほしい」につなげる可能性について検討しました（下記は組み合わせの例）。分野は様々ですが、市民の「できる」を組み合わせることで、地域自治の可能性が大きく広がることが分かりました。

できる	やりたい	やってほしい
<ul style="list-style-type: none">・清掃活動・啓発活動への協力	<ul style="list-style-type: none">・公園などの美化活動・住み良いまちづくり	<ul style="list-style-type: none">・車道のごみをなくしたい・まちをきれいにしたい
<ul style="list-style-type: none">・空き部屋・スペースの活用・DIY	<ul style="list-style-type: none">・若い世代向けの講座・空き家等のリノベーション	<ul style="list-style-type: none">・学生を呼び込める施設があると良い・空き家等を活用したい
<ul style="list-style-type: none">・防災訓練に参加・地震や台風の時の声掛け	<ul style="list-style-type: none">・豪雨時の避難グループ作成と訓練・地域での声掛け	<ul style="list-style-type: none">・みんなで防災訓練がしたい
<ul style="list-style-type: none">・高齢者の通院などの送迎・傾聴（人の話を聞くこと）	<ul style="list-style-type: none">・高齢者との交流・高齢者の手助け	<ul style="list-style-type: none">・高齢者に負担がないまちにしたい

4. 当日の様子 (写真)



5. 振り返りの結果

全プログラム終了後に、心に残ったこと・感想を1つだけ振り返り、ふせんに書いて模造紙に貼り付けました。結果は下記のとおりです。

1	安易に「やってほしい」と考えるのではなく、具体的にやってほしいことの要素を抽出して、できる・やりたいにつなげていくことが大切だと実感した。
2	「こんなことができる」の交流で、助け合いで実現できそうだと思います、自分にできることがあったら参加したい。色々出ていたことが実現できたらいいと思いました。
3	同じようなスキル・ニーズを持っている人は、思いのほか多い。
4	退職等をして、まだまだ活躍できる人が多くいる。
5	自分が出来るどんな小さなことでも、誰かの役に立つことが出来るかもしれないと思いました。
6	個人でやれる事に対する意識が変わりました。
7	一人一人の力が、市を変えることを実感しました。
8	個々の力は持っていても、繋がりや弱さ、一歩踏み出すことの大切さを感じた。
9	参画と協働の重要性が必要と実感した。
10	「やりたい」と「できること」をつなげる人や、情報を見つけることが大切だと感じた。
11	人の話を聞くことの大切さがよくわかった。市民自治についての理解が深まった。
12	やりたいこと・やってほしいことを書いたが、紹介を聞いて、自分が書いた内容について、皆さんにとってはどうなのかを聞いてみたかった。総合計画に活かしてほしい。
13	寝屋川市内だけでも多種多様な人材（考えを持った人）がいる。素晴らしい。素敵だ。
14	他の参加者の意見を自分に照らし合わせてみて、刺激になりました。また、同じ考えの人が数人いることに少し驚きました。
15	参加されている方々が、「できる・してみたい」と意欲のある方が多いのに大変驚いた。
16	様々な特技を持った方がたくさんおられると感じた。しかし、これらを結び付けて何かを形作るという事が難しいとも感じた。たしかに、コーディネーターが必要である。
17	出来る事は、自分で。出来ない事は、皆で。

18	市民全体で市が活性化するには、全市民の0.1%が主体的に参加することが大切というお話は、数値的な目標が示されてわかりやすかった。「～でしかできないことをする」というルールはわかりやすかった。
19	自分しかできないことは自分ですることが地方自治の原点であると学んだ。
20	市民ができることを市民が主体的に考えることが大切で、言動に移すのがもっと大切だと思った。
21	自分ができると思ったことが、とても小さなものだと感じていたが、周りのやりたいことに少しでも協力できるのではないかと感じるようになった。
22	自分の住んでいる街にもっと興味を持ちたいと感じた。
23	すごい能力のある人が多くいてびっくりしました。私は寝屋川市に関心の少ない人が多いのではないかと、ちょっとあきらめの気持ちがありましたが、勇気をもらいました。ごみ減量の活動がんばります。
24	自分が「できる」と自分の「やりたい」ことが、他の人の「できる」「やりたい」の中にもっとあることがわかった。どのように繋がっていくのか考えたい。
25	自分が思っている事を皆さんと共有でき、とても有意義な時間でした。
26	災害・医療福祉など日常あまり考えていない問題について、正面から向き合っていかなければならないと思った。
27	道路事情の改善を期待している人が多い。
28	これまで自治行政に対して考える機会がなかったが、今日参加して自分達でできることを発信して、良いまちづくりを自分達で行うことが大事だと感じました。
29	気付いた事を少しずつ行動に移して行かなくてはいけない。
30	興味を持たないと、やりたいことにつながらないと思いました。
31	いろんな考えを持つ方の話を聞く機会として、とてもおもしろかった。全体を意識することが大切だと感じた。
32	たくさんすごい方がいらっしゃると感じました。イベント・スポーツへの期待が大きいと感じました。
33	自分の「できる」が特別なことだと思っていなくても、欲している人がいると感じた。
34	寝屋川市には、多様な人が住んでいる、学んでいる、働いていることを実感できたワークショップでした。人と人がつながること、そしてつなげることの大切さを学ばせていただきました。
35	50～60人程度の中で、自分のやりたいことと、他の人のできることが一致したり、同じ思いをしている人がいることがわかった。初めてワークショップに参加したが、とても楽しく、色んな意見がきけて良い経験になった。
36	住民自治が市のコストを削減する。一人一人の能力を繋ぎ合わせるコーディネーター役が必要。人の話をよく聞く事が大切。一人一人に様々な人生があり、それぞれが特技を持っている。

6. まとめ

本ワークショップの当初の目的は「寝屋川市の将来を見据えて、寝屋川市民の一人ひとりが取り組みたいことや、協力すればできそうなことが多いことを感じてもらい、その上で、市民が行政に求める役割や、市民が感じる寝屋川市の課題、実現の手段（市民協働）を明らかにすること」でした。

ワークショップの中で市民一人ひとりの振返りの内容を見ると、「安易に『やってほしい』と考えるのではなく、具体的にやってほしいことの要素を抽出して、できる・やりたいにつなげていくことが大切だと実感した。」「参加されている方々が、『できる・してみたい』と意欲のある方が多いことに大変驚いた。」「これまで自治行政に対して考える機会がなかったが、今日参加して自分達でできることを発信して、良いまちづくりを自分達で行うことが大事だと感じた。」という内容からも読み取れるように、住民の手による自治の可能性や、協働することの大切さについて、一定程度理解いただけたと考えられます。

平成 32 年度を計画開始年度とする第六次寝屋川市総合計画の策定においても、自治や協働の在り方を考えながら進めていくことが重要です。

7. (参考) アンケート結果

下記の調査票を用いてアンケートを実施しました。(結果は次ページ以降)

市民ワークショップ アンケート

本日は、お忙しい中、「寝屋川市総合計画策定に係る市民ワークショップ」に御参加いただき、誠にありがとうございました。今後の参考とさせていただきたいと考えていますので、下記の設問について、適当な数字に○を付けてください。

問1 あなた様について

(1) 10歳代	(2) 20歳代	(3) 30歳代	(4) 40歳代
(5) 50歳代	(6) 60歳代	(7) 70歳以上	

問2 どのような方法で本ワークショップのことを知りましたか。(複数回答可)

(1) 市民意識調査同封のチラシ	(2) 市広報誌
(3) 公共施設配架チラシ	(4) 市ホームページ
(5) 市フェイスブック	(6) 家族・知人等からの紹介
(7) その他 ()	

問3 開催時間について、あてはまるものを1つ選んでください。

(1) 大変長い	(2) やや長い	(3) 普通	(4) やや短い	(5) 短い
----------	----------	--------	----------	--------

問4 本日実施した以下のプログラムについて、皆さんの満足度はいかがですか。

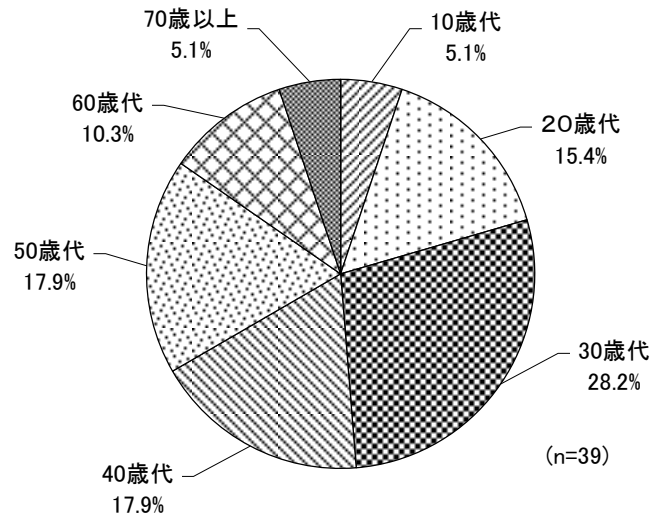
	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
■総合計画とは(市による説明)	5	4	3	2	1
■「やさしく自治を語り合おう」 (中川名誉教授講演)	5	4	3	2	1
■「できる・やりたい・やってほしい」ワーク	5	4	3	2	1
◆まちづくりの関心が深まった	5	4	3	2	1
◆あなた様が一人又は皆様で取り組みたいことへのヒントが得られた	5	4	3	2	1
◆新しい総合計画の内容に興味を持つことができた	5	4	3	2	1

このワークショップについての御意見・御感想を御記入ください。

御協力ありがとうございました。

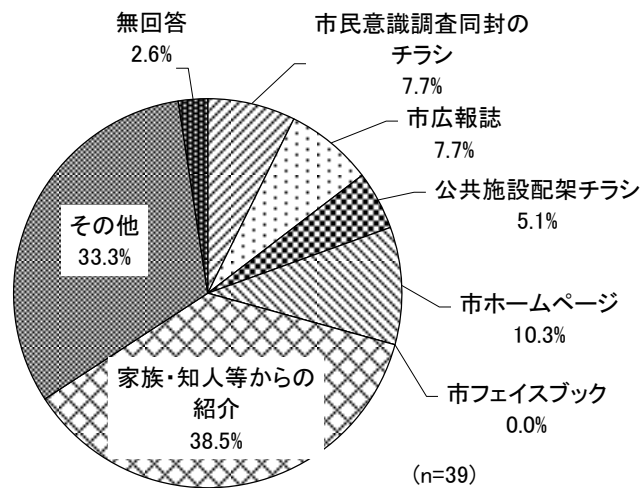
(1) 年齢

「30歳代」が28.2%と最も多く、次いで「40歳代」「50歳代」が17.9%となっている。



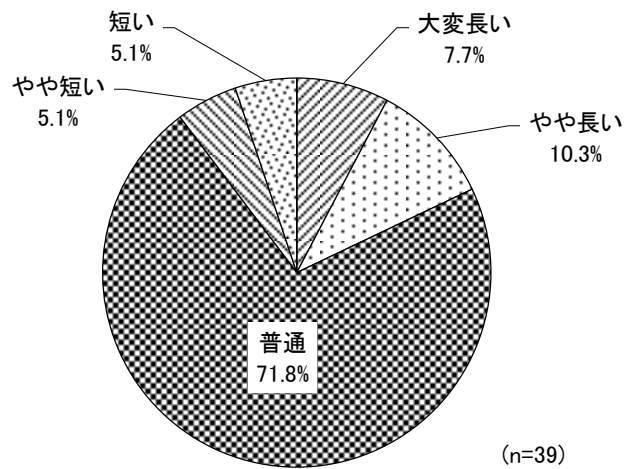
(2) 本ワークショップを知った方法(複数回答)

「家族・知人等からの紹介」が38.5%と最も多く、次いで「市ホームページ」が10.3%、「市民意識調査同封のチラシ」「市広報誌」が7.7%となっている。



(3) 開催時間について

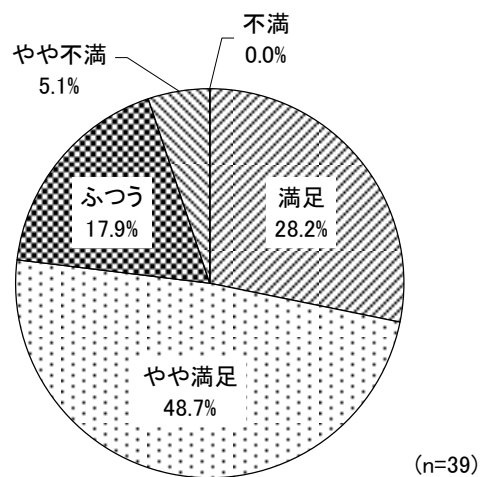
「普通」が71.8%と最も多く、次いで「やや長い」が10.3%、「大変長い」が7.7%となっている。



(4) 実施したプログラムについての満足度

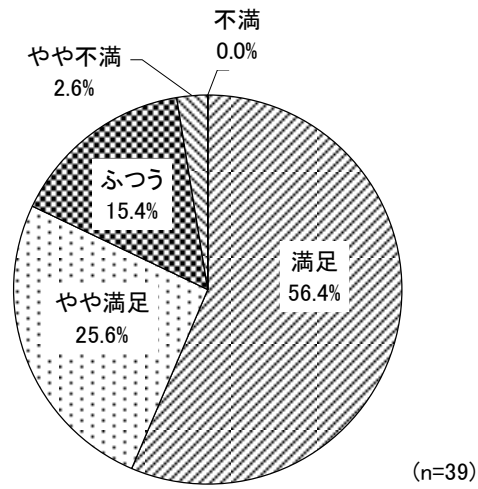
① 総合計画とは（市による説明）

「やや満足」が48.7%と最も多く、次いで「満足」が28.2%、「ふつう」が17.9%となっている。



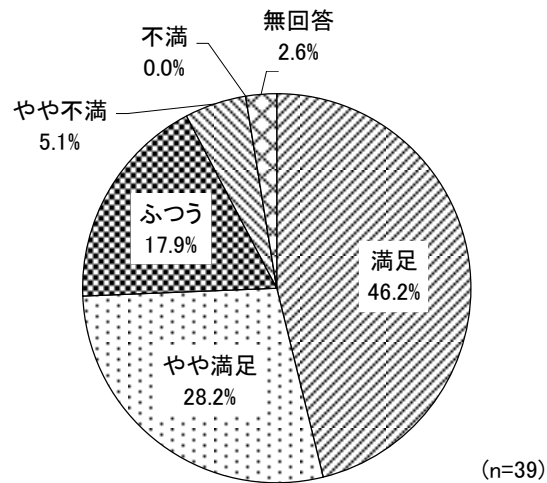
② 「やさしく自治を語り合おう」(中川名誉教授講演)

「満足」が56.4%と最も多く、次いで「やや満足」25.6%、「ふつう」15.4%となっている。



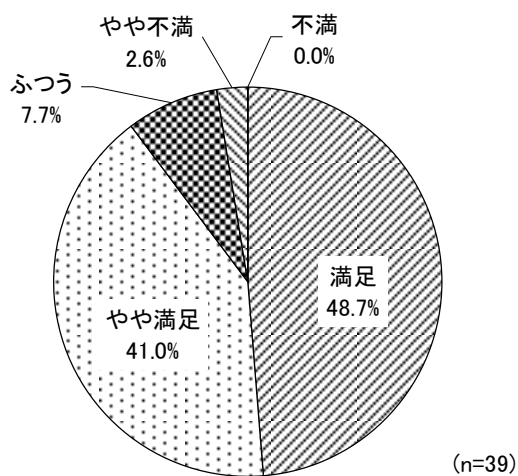
③ 「できる・やりたい・やってほしい」ワーク

「満足」が46.2%と最も多く、次いで「やや満足」28.2%、「ふつう」17.9%となっている。



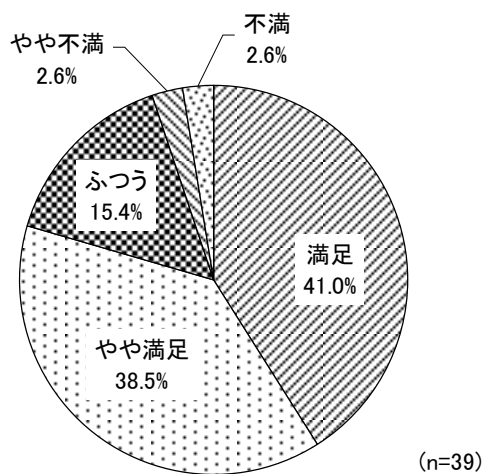
1) まちづくりの関心が深まった

「満足」が48.7%と最も多く、次いで「やや満足」41.0%、「ふつう」7.7%となっている。



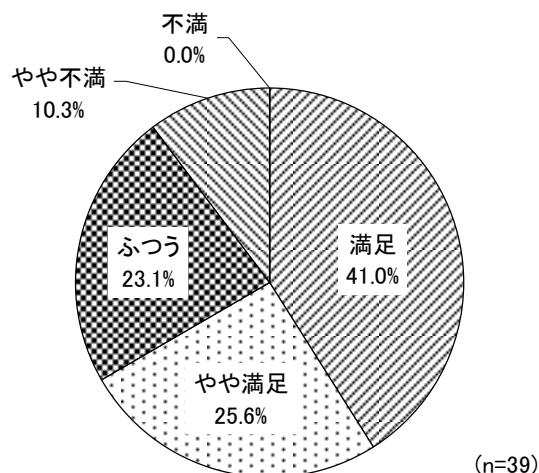
2) 一人又は皆で取り組みたいことへのヒントが得られた

「満足」が41.0%と最も多く、次いで「やや満足」38.5%、「ふつう」15.4%となっている。



3) 新しい総合計画の内容に興味を持つことができた

「満足」が41.0%と最も多く、次いで「やや満足」25.6%、「ふつう」23.1%となっている。



【ワークショップへの意見・感想（全数）】

- ・楽しく参加できました。勉強になりました。女性の方がもう少しいたらよかった。
- ・参加者女性が少なかったが男女比を考え、選出配慮が必要だと思いました。若い人の参加が多かったが、子育て中の女性の意見が少なかった。年配と既婚・未婚・子育て中・子育てしていない・介護者など、色々な方がバランスよく出席していればと思った。楽しかったです。出された意見も参考に寝屋川市総合計画策定にかされればと思います。
- ・行政と市民のすみ分けについて、考える機会になりよかった。逆に、すみ分け・役割分担・協働の発想がない人からすれば、行政が何もやってくれないと不満を誘発しかねないとも感じたので、周知が必要であるともあわせて実感した。
- ・市民の皆さんと意見を共有し合えるという機会は、とても良いと感じたので、これからも続けて欲しいと思いました。
- ・様々な人の考えを知ることができ良かった。
- ・一人一人の色々な活動や御意見が聞けて楽しめました。
- ・まとめたものをフィードバック（各参加者）してほしい。
- ・中川先生のお話も大変興味深く聞かせていただきました。一人ひとりが主役として、市政を変える実感ができました。有難うございました。
- ・草宮さんの話がわかりやすく、とてもよかった。中川先生の講演はあまりやさしくなかった。
- ・参加者相互のワークが、ちょっと物足りない。
- ・目的が何なのか、私としては明確に感じられなかった。
- ・「寝屋川でやってほしいこと」は、ぜひ計画に反映してほしいです。
- ・寝屋川市の市政に興味をもつことができた。もっと沢山の市民の方に知ってほしいと思う。
- ・地方自治について具体的に学べた。また参加したいです。